

2006年12月22日

各 位

会社名 三菱商事株式会社
代表者名 代表取締役社長 小島 順彦
コード番号 8058
本社所在地 東京都千代田区丸の内
2丁目3番1号
問合せ先 広報部報道チームリーダー
内村 雄介(Tel03-3210-2172)

サハリンエナジー社の株式譲渡についてのお知らせ

三菱商事株式会社は、ロイヤルダッチシェル、三井物産株式会社と共同で、3社の共同出資会社サハリンエナジー社(SE社)株式の一部をロシアのガスプロム社へ譲渡することを決定し、このたび3社とガスプロムとの間で譲渡に係わる議定書(protocol)を締結しました。同議定書に従い、今後ガスプロムはSE社株式50%+1株を74.5億ドルにて取得することとなります。株式譲渡は詳細契約の合意を以って実行予定です。新しい株主構成は、ガスプロム50%、シェル27.5%、三井物産12.5%、三菱商事10%となります。

SE社は今後もプロジェクトのオペレーターを務めていきます。尚、ガスプロムは、最大株主としてプロジェクトの主導的役割を担うことになり、一方でロイヤルダッチシェルは、引続きSE社経営に深く関与しつつ、技術的なサポートも継続していきます。

ガスプロム及び既存株主は、一丸となって、既にご購入を確約いただいている日本・韓国及び米国西海岸の顧客に対し、スケジュール通りLNGを供給すべく、サハリンIIプロジェクトの完工に向け全力を挙げて取り組むことで合意しました。

又、ガスプロムと既存株主3社とは、サハリンIIプロジェクトを中心とする将来的な近隣鉱区の探鉱・開発に、今後共同で取り組んでいきます。又、許認可問題に関連し、ガスプロム及び既存株主3社は、同問題解決に向けて最大限努力していくことを確認しております。

更に、サハリンII株主は、PSA(生産物分与契約)の主管官庁であるロシア連邦産業エネルギー省との間で、諸問題の解決に向けた今後の取り決めについての基本合意に至りました。今般の合意を以って、ロシア法及びPSAに基づき工事に必要な全ての許認可が遅滞無く発行され、スケジュール通りにプロジェクトを遂行していく方針を確認いたしました。サハリンIIプロジェクトの改訂開発予算については、Supervisory Board(ロシア連邦・サハリン州政府代表及びSE社代表により構成される特別委員会)によって承認される見通しです。又、PSAが今後とも維持されていくことも確認されております。

議定書の調印は、サハリンⅡプロジェクトにおける大きなマイルストーンであり、三井物産、三菱商事は、ガスプロムが新たに本プロジェクトに加わることを歓迎します。三井物産、三菱商事は、議定書調印により、ロシアと日本の絆が更に深まり、サハリン島における更なるエネルギー供給源の開発に参画する機会がもたらされるものと確信します。又、SE社株主4社が結束し、その相乗効果により、SE社が、アジア・太平洋マーケットに高く評価されるサプライヤーとなることを確信しております。

以上

(別紙)サハリンⅡプロジェクト概要

【参考資料】

サハリンⅡプロジェクトの概要

ロシア・サハリン島沖は、約 450 億バレル相当(石油換算)の資源を有するといわれる新たな世界規模の石油・ガス開発地域です。サハリンⅡは世界最大の石油・ガス複合プロジェクトであり、約 40 億バレル相当(石油換算)の資源を有します。

サハリンⅡプロジェクトは現在、日量約 8 万バレルの原油(夏季半年間)を生産しています。現在、第二段階開発を行っており、建設完了後、日量約 17 万バレル(通年生産)の原油及び年間 960 万トンの液化天然ガス(LNG)を生産する予定です。尚、原油通年生産開始は 2007 年冬、LNG 出荷開始は 2008 年夏頃を予定しています。

この第二フェーズの工事進捗率は現時点で 80%を超えており、今日までに約 120 億米ドルの資金が投下されています。建設には 1 万 7 千人以上を雇用しており、その約 7 割はロシア国籍です。生産を予定している LNG は、アジア太平洋地区の顧客に販売する予定です。

サハリンⅡプロジェクトは生産物分与協定(PSA)に基づき開発が行われており、現状 3 株主がプロジェクトの建設資金を調達し、開発リスクを負い、原油及び天然ガスの販売収入から資金を回収する仕組みとなっています。また、2006 年 12 月までに、約 6 億米ドルをロイヤリティーや税として、ロシア政府に支払っています。

サハリンⅡプロジェクトの工事内容は、以下の通りです。

- モリクパック・プラットフォーム(PA-A、1999 年以来、夏季半年間原油生産中)、新たに建設・設置する PA-B 及び Lun-A プラットフォームや総計約 300 キロメートルの海底パイプラインを含む洋上生産設備
- ピルトン・アストフスコエ鉱区及びルンスコエ鉱区からの天然ガス及び原油を処理するための陸上処理設備
- サハリン島南端まで約 800 キロメートルにわたる二本の陸上石油及びガス・パイプライン
- 通年操業可能な原油輸出設備
- ロシア初の LNG プラント及び付随する輸出設備
- 道路、橋、鉄道、港、空港および病院等のサハリン島内インフラの改良

以上